

令和6年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽Ⅰ・ 美術Ⅰ・ 書道Ⅰ)	1 生徒一人ひとりの個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) ICT機器を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。 (4) 個々に懇切丁寧な指導・きめ細やかな指導する際に、指導者の経験値や考えを強調しすぎないように配慮する。	A	A	歌唱指導・演奏指導の実技指導時間が持てるようになった。感染症対策に配慮をしつつの実施のため、不足気味であった。 古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施が少なかったので、次年度は多いに実施したい。生徒が選択している科目以外の内容理解と興味関心を引き出すチャンスとなることが期待できると考える。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽、工芸、書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、ICT機器に保存した自己作品など利用しつつ、生徒自身が情報発信できるようにする。	A		